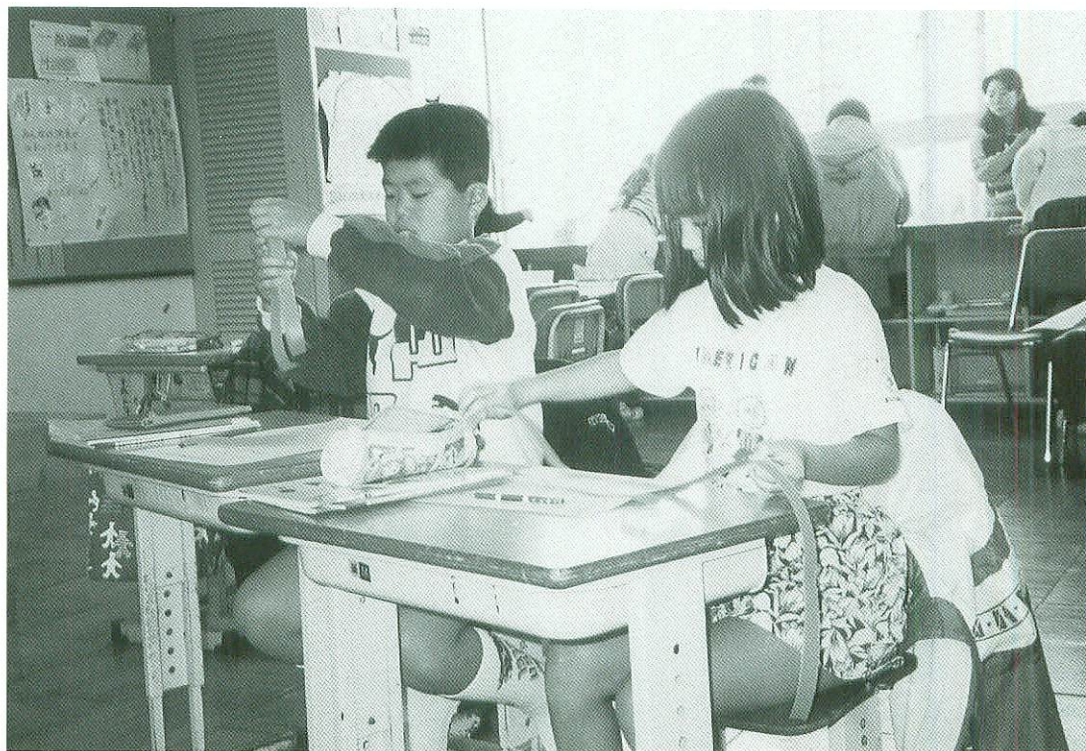


東 雲

第五号

9年(1997) 3月



南部広域行政組合
島尻教育研究所

目次

- 随 想 四 つ 竹 所長 宮 城 恒 彦…………… 1
- 修了者及び次期入所予定者、指導講師一覧…………… 2
- 教育雑感「生きる意欲を養う教育課題」
南部広域行政組合教育委員会 教育長 島 袋 朝 徳…………… 3
- 研修を終えて 島尻教育研究所教育研究員…………… 5
- 教育研究の中から「郷土の民話やわらべ歌を通して
心豊かな幼児の育成を図る保育実践」
糸満市立高嶺幼稚園 教頭 屋比久 トシ子……………14



四　　つ　　竹

所長 宮 城 恒 彦

最近、他府県からやってくる高校生の修学旅行の中身が変わりつつあるような気がする。観光や平和学習の他に、沖縄の文化への理解や興味・関心も示していることが、新聞・テレビ等の報道で見られる。喜ばしい傾向だと、教師たちの「沖縄」への認識の変容を感じている。相手の文化を知り、理解することは交流がいっそう深めることにつながる。

地元の沖縄でも郷土の文化に関する再認識が深まり、その継承への熱意も高まりつつある。学校では、学芸会や運動会などの行事でエイサーが実演発表され、好評を得ている。また三味線クラブを設置して郷土の音楽にも親しませている学校もある。さらに、地域によっては「方言によるお話大会」も実施され、古里の美しいことばを絶やさないような努力も続けられている。

文化とは、生きる方法の決算であり、人間が個人として、また、集団として生きる生の条件が文化を生み出しているともいわれる。沖縄の文化には祖先の血が流れている。我々はそれを受け継いで生きてきた。外観ではだませても、魂まで消し去ることはできない。ある県の集まりで「ウチナーン人」ではないと、出身地を隠そうとしていた婦人が、カチャーシイの雰囲気ですに踊り出したという話もある。南米移民の二世、三世たちが、「ウチナー人の血が流れている」と胸を張って話す場面に接すると喝采を送りたくなる。

真の国際化には、自分のことも相手に十分説明できるだけの情報と知識とを持ちながら、相手のことを知り、そして理解することが、重要な条件となるであろう。前の職場に勤めていたとき、数名のALT（外国語指導助手）たちとつき合ったことがある。ほとんどの方が沖縄の文化に興味・関心があって、理解しようと努めていた。カナダから来た女性のTさん。3年の契約を終えて帰る時の別れの言葉に「沖縄の中学生にもってと方言を教えてください」と注文をつけ、自分は「ハイサイおじさん」をカラオケで見事に歌った。ニュージーランド出身のEさんは古武道の三段の資格をとり、三線は新人賞を授与された大の沖縄好きの好青年である。また、テキサス州のKさんは長寿学園の講座で祖父母伝来のアイスクリームの作り方を教えていた。それに必要な道具は、わざわざ故郷から取り寄せたという。自分たちの足もとを見つめ直させられた。

H高校が新しく「郷土文化科」を設置しようと、職員会に提案したら、いろいろな理由をつけて職員が反対したという。その意義と必要性とを深く認識していた校長が、私のところに見えた。話を伺って共鳴し、即座に賛成し、激励をした。決意を込めて帰っていかれた。先日の新聞に「H高校生が組踊、郷土文化コース学習成果を発表」の大きな見出しで、そのあらましを説明し「……芸能関係者も舌を巻くほどの出来ばえに、他のコースの生徒や保護者らも声援や大きな拍手を送っていた」と、その成果を報道していた。「私の考えは正しかっただろう！」とすでに退職されているK校長は快哉を叫んだのではなかろうか。

若夏国体の開会式で500名以上の沖縄乙女たちが花笠に紅型衣装を着け、広い競技場を埋め尽くして、あでやかに踊っていた。迫力があり、圧巻だった。「うち鳴らし鳴らし……」で始まる「四つ竹」の優美で華麗な容姿と歌に身震いするほど感動した。「ウチナーン人」であることにこの上ない喜びと誇りを感じたことを今でも思い出す。

平成8年度 後期 教育研究修了者及びテーマ一覧

期数	氏名	勤務校	教科・領域	研究テーマ
後期	1 上原 則子	豊見城村立 伊良波幼稚園教諭	幼稚園教育 言語領域	ことばの豊かな幼児の育成を目指して ―聞く、話す楽しさを味わうようにするための環境構成と援助の工夫を通して―
	2 屋比久 トシ子	糸満市立 高嶺幼稚園教頭	幼稚園教育 表現	心情の豊かな幼児の育成 ―地域の民話やわらべ歌の教材化を通して―
	3 金城 欣也	糸満市立 糸満南小学校教諭	国語科	一人一人が自ら意欲的に学ぶ国語科学習指導の工夫 ―音読・朗読を重視した学習過程を通して―
	4 與那嶺 政秀	大里村立 大里北小学校教諭	算数科	自ら学ぶ意欲を育てる算数科学習指導の工夫 ―問題解決の過程における自己評価活動を通して(5年文字と式)―
	5 久米 洋子	糸満市立 喜屋武小学校教諭	道徳	豊かな心と主体的実践力を育てる指導の工夫 ―総合的学習指導の実践を通して―
	6 玉城 智子	知念村立 知念小学校教諭	特別活動	主体的に活動する児童を育てる学級活動 ―係活動の活性化の工夫を通して―
	7 又吉 かおり	糸満市立 潮平小学校教諭	僻地教育 (算数)	複式学級における自ら学ぶ力を育てる学習指導の工夫 ―算数科における主体的な学習の仕方の指導を通して―
	8 平良 幹子	糸満市立 糸満小学校教諭	特殊教育	知的障害児における文字指導の工夫 ―U・M児のひらがな学習を通して―
	9 座嘉比 幸枝	南風原町立 南星中学校教諭	国語科	音声言語表現能力を育てる国語科学習指導の工夫 ―音声言語指導の場の設定と年間指導計画への位置付けを通して―

平成9年度 指導講師及び担当教科

指導講師	教科・領域	所属等	指導講師	教科・領域	所属等
名嘉元 美佐子	幼稚園教育	豊見城村立 豊見城幼稚園教頭	上原 弘子	生活科	南風原町立 南翔南小学校教頭
上原 須美子	幼稚園教育	糸満市立 潮平幼稚園教頭	大城 早智子	国語科	糸満市立 喜屋武小学校教頭
安次嶺 敏雄	小学校教育相談	糸満市立 潮平小学校教頭	竹本 祐子	国語科	豊見城村 教育委員会指導主事
高良 清吉	特別活動	豊見城村立 とよみ小学校校長	仲里 好子	道徳	糸満市立 光洋小学校校長
荷川取 幸代	学級経営	豊見城村立 伊良波小学校教諭	松吉 洋子	算数科	県教育庁 島尻教育事務所指導主事
知念 清雄	学校経営	南風原町立 津嘉山小学校校長	安次嶺 敏雄	中学校教育相談	糸満市立 潮平小学校教頭

平成9年度 前期 入所予定者及びテーマ一覧

期数	氏名	勤務校	教科・領域	研究テーマ
前期	1 上原 順子	糸満市立 潮平幼稚園教諭	幼稚園教育	幼児一人一人が友達との関わりの中で育ち合う援助について
	2 具志 幸恵	糸満市立 糸満小学校教諭	特別活動	学級活動の指導の工夫 ―話し合い活動を通して―
	3 富永 真智子	糸満市立 糸満南小学校教諭	学級経営	一人一人が生き生き活動できる明るく楽しい学級づくりを目指して
	4 照屋 静江	糸満市立 兼城小学校教諭	学校経営	校内研修を活性化させる学校経営 ―校内研修の組織・運営の工夫を通して―
	5 宮城 利恵子	与那原町立 与那原東小学校教諭	生活科	自ら意欲的に活動する子の育成 ―地域素材を生かした年間指導計画の作成を通して―
	6 糸数 佐百合	知念村立 知念小学校教諭	国語科	表現する喜びを知り、主体的に表現活動に参加する児童の育成 ―楽しく表現する学習活動の工夫―
	7 下地 米子	豊見城村立 豊見城小学校教諭	教育相談	心豊かな子を育てるための教育相談 ―いじめ問題の家庭教育への在り方と学級担任の関わり方―
	8 伊井 秀治	与那原町立 与那原中学校教諭	教育相談	不登校生徒への指導・援助の在り方 ―自己教育力の高揚をめざして―



生きる意欲を養う教育課題

南部広域行政組合教育委員会

教育長 島 袋 朝 徳

教育庁の調査によると、平成7年度に高校を中退した生徒は、1,565人となり生徒全体に占める割合は2.9%である。中退の理由は、進路変更がトップで、次いで学校生活・学業不適応、学業不振の順である。卒業生の県外就職志向も少ないということである。

また、高校や大学を卒業した者の3割から4割は、3年以内にその仕事をやめてしまうそうである。しかもやめる理由というのが、休みが取れなかったから、上司に怒られたからなどの単純なものである。高校や大学を卒業した子どもたちには、働く能力はあっても、働く意欲がないと言えるのではないか。社会で働くのに必要なのは意欲である。

中国古典の一節に、立派に仕事を成し遂げるためには、4つの段階を踏まなければならないとして、次の条件を挙げている。

(1)熟つら思い審かに処す (2)意を鋭くし力を極む (3)漸あり己むなし (4)深く憂い過ぎて計る。この中の(2)の項目は、意欲を燃やして全力でぶつかっていくことであり、(3)の項目は、第3に着実に前進を図り途中で投げ出さないことである。と訳されている。

人生をどう生きるかの人生の指針となる。

かつて、人口の過疎化の中で大分県の平松守彦知事は、「地域から少しぐらい人間が減ることはそう怖いことではない。それよりも『もう俺の町は駄目だ。こんな町に住んでるより東京に行きたい』という気持ちになるという、心の過疎が何より怖いことなのである。『俺の地域で何とか一つやっτείこう』という気力のある青年やリーダーがいる限り村は活性化する。」と若者の奮起を促した。

今、家庭や学校で最も欠けているのは、人間らしく生きる力を養う教育であると指摘されている中で、今回の教育改革のキーワードの一つが「生きる力」である。子どもたちに生きる力が身に付くような教育をしようということである。

「生きる力」はいつの時代でも必要である。

しかし、これからは特に必要だということを認識しなければいけないと思う。私たちは、高度経済成長により豊かな時代が続き、ことさら生きる力ということを意識しなくても生きてきた。これからの時代は高齢化社会、情報化社会、環境問題、科学技術の進歩、少子化、国際化等、非常に困難なことが子どもたちの前に立ちはだかっている。

「生きる力」とは、21世紀の社会に対応していく力、未来を生きる力のことと理解する。

「生きる力」については、多くの方々の考え方が示されているが、これらの概念規定は、現行学習指導要領における「新しい学力観」と同一方向にあるものと言われている。だとすれば、子どもたちの内なる学習意欲を喚起し、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や

能力を基本とする新しい学力観として、「生きて働く力」を身に付けさせることが肝要である。

本県教育で、最も重要視されている学力向上対策が推進されている折、子どもたちに生きる力を養う教育において、学習指導要領の大きな柱である、○ 自ら学ぶ意欲、態度、能力（自己教育力）を育てること ○ 社会の変化に主体的に対応できる能力を育てること ○ 基礎・基本の重視とその徹底のための教育を推進すること ○ 個性を尊重する教育を充実すること ○ 心豊かな児童・生徒を育てること、これらは、学校における教育実践において、常に忘れてはならない核となるもので大事なことである。

自分は何のために勉強するのかはっきりとは分らないまま、塾に通い受験勉強に駆き立てられるのでは、真の意味での学ぶ心など育つはずがない。そのことが無目的な高校生活や、働く意欲を欠いた職業生活を生み出す原因になっていると思う。こうなったのは、私たちが意欲を養う教育を忘れて、能力主義の教育に偏り過ぎた結果ではないだろうか。

「好きこそものの上手なれ」のとおり、興味・関心は学習意欲を高め、自発性を促し、学力を伸ばす原動力である。そのため子どもにはいろいろな体験をさせ、様々なものと触れ合う場をつくることが大切である。

これからの社会の変化に対応していくためには、積極的に学ぶ意欲と主体的な学習態度を身に付けることが課題である。





不安と緊張の中で

—入所にあたって—

糸満市立糸満南小学校教諭 金城 欣也

「愛と希望と」「入所おめでとう」という励ましの言葉が壁にはられている研究室に入ったとき、これまで抱いていた不安が少し和らいだような気がしました。

10月3日、私たちは平成8年度後期教育研究員として島尻教育研究所に入所しました。前期の研究員の方々が私たちのために、研究室をきれいに飾り付けてありました。また、一人一人の机には、花籠にあふれんばかりのデンファレが生けられており、部屋中ほのかな花の香りでいっぱいでした。そんな心遣いが嬉しくて、みんなの表情が少しずつ明るく輝いてきたことを思い出します。

私たち「第5期生」9名が初めて顔を合わせたのは、前期の研究報告会の会場でした。

「すごい。みんな持ち時間をしっかり守って、充実した発表をしている。」

「自分たちもこんな発表が果たしてできるのだろうか。」

「研究内容も深くて、分かりやすいように工夫して発表をしている。しかも、言葉は明瞭でみんな堂々としている。」

前期研究員の自信に満ちあふれた発表を聞いて、みんなの表情から研究への不安が感じられました。それぞれに、研究テーマを一応もっているのですが、「本当にこれでやっていけるのか」、「自分の研究したいことは本当にこれでいいのか」、考えれば考えるほど心配になり、入所式の日が近づくにつれて日に日に、心細くなっていきました。

学校では、研究所の入所式までに済ませておかなければいけないことが山ほどあり、忙しさに追われているうちにいつの間にか入所式の日がやってきたのです。そんな慌ただしさの中で、入所したものですから、研究室の雰囲気作りをしてくださった心遣いは有り難く、私たちの不安感や緊張感は一瞬のうちに取り除かれました。

そして、初日の所長のお話に感激したことも思い出されます。

「三人行けば必ずわが師あり」と書かれた色紙を一人一人に手渡し、お話をしてくださいました。

「あなたたちの周りには、同じ研究員のメンバー、指導主事や指導講師の先生、南部広域行政組合の職員、所外研修で出会う人々等、いろいろなことを学ぶべき人がたくさんいます。それだけではありません。研究図書や参考図書、新聞等、たくさんの資料もそろっています。だから、あなたたちは、教える立場から学ぶ側への発想の転換をする必要があります、そして、更に大切なのは、何を、どのような心構えで学ぶかということです。自己に厳しく、そして、謙虚な態度で幅広い見識と弾力性のある考え方を身につけ、相手の長所を発見し認める中で、6か月をかけ研究テーマの入り口を探すことができればよろしい。そして、現場に戻ってから実践を重ねていく中で、研究を深めてください。」という所長の一言一言は、私たちの心を奮い立たせ、これまで抱いていた心細さが、希望へと変わっていきました。

私たちの不安を察して、厳しい中にも楽しさの感じられる研修になるように、いろいろと気配りをしてくださった所長や、私たちの悩みを全部うけとめて丁寧に指導・助言をしてくださった上原主事、野原主事、そして指導講師の先生方のおかげでこの半年間、私たちは自分を見つめ直し、深く研究を進めていくことができました。本当にありがとうございました。私たちは、研究所で学んだことが生かせるよう、これからも教育実践をすすめていきたいと思っています。



私を成長させた「大切な話」「3分間スピーチ」

大里村立大里北小学校教諭 與那嶺 政 秀

6カ月間で多くのことを学びました。教師になって研修期間がなかった私にとっては算数科を通しての理論研究は大変に勉強になりました。また、自主研究以外の所内研修や所外研修も自分を成長させてくれたものと思います。

「ゆったりとした時間は人生の中ではあまりなく、年齢も経験も違う人の中で考えを出し合うこともなかなかない。そこで、この6カ月の研修をよい機会として、いろいろな角度から錆を落としてほしい」という所長の講話を胸に、次の「大切な話」「3分間スピーチ」が行なわれました。

〈大切な話〉

外山滋比古の「学校で出来ること出来ないこと」の小冊子を題材に、毎週水曜日の朝行なわれました。

進め方としては、9名の研究員がそれぞれ輪番で担当し、98項目の中から一つを選び、提案者の提案理由・感想の後、他の研究員が感想を述べ、両指導主事、最後に所長の総評をいただくという方法で進められました。

実践するにあたり、所長より「大切な話」の進め方のポイントについて、①話し方の勉強なので要点を押さえて話すようにする。②発表のときは自分の感想だけでなく、他の人の考えも引用して発表するとよい。③話を聞くときはメモをとる。④全員感想を発表する。の4つが出され、何のためにこの研修をするかが明確にされてから始められました。

書評に、「教育とは、知識を教えるだけでなく心も育てること。そのためには、家庭の空気、家風が非常に重要である。本書は、豊かな時代の教育の落とし穴や、しつけや“話し聞く”ことばの教育の重要性、失われつつある子ども同士の遊びやケンカの大切さなど、日頃忘れられがちな教育のヒントを綴っている。親だけでなく教師にも役に立つ示唆に富んだ一冊である。」とあるように読み通すだけでも役立つ内容であり、更に全員の感想を聞くことで触発されることが多くありました。

毎週、ほどよい緊張感をもちながらも感想をまとめ、発表することでずいぶん鍛えられました。自分自身の今までの考えを反省する良い機会となり、現場での悩みが明らかになり、解決できる見通しをもつこともできました。また、教師の在り方や家庭の在り方、親の在り方などいろいろな立場から子どもをみることもでき、更に、同じ題材でも一人一人受け取り方が違うので、それだけに勉強になりました。

〈3分間スピーチ〉

毎週金曜日の朝、担当の研究員がテーマを決めて、「大切な話」と同じように進められました。なぜ3分なのかという資料を通しての説明や「3分間スピーチ」のコツについても所長からお話があり、研究員はそのコツを参考に前向きに取り組みました。

担当者は自分の経験や新聞、これまで読んだ本、更に、テレビ・ラジオや家庭や地域社会等から、今一番関心のあること、或いはみんなに話したいことから題材を決めて取り組みました。3分への挑戦、3分間でいかに話したいことをまとめるか、いざ話してみると以外と短い3分、あっという間に3分が過ぎていってしまうことが多々ありました。研修も後半になると、「最初の頃に比べてずいぶんみんなうまくなっているよ」と所長に言われ、安心もしました。現場ではなかなか3分を意識して話す機会がないだけに貴重な体験となりました。これらの2つのことを通して、他の研究員や両指導主事のいろいろな体験や実践を通しての考えを聞き、その人柄を感じるとともに、多くのことを学ばせていただきました。また、最後にみんなの意見をまとめてくださる所長の奥の深い経験豊かな話は学ぶことが多くとても充実していました。

最後に、研修の機会を与え、支えてくださいました皆様に感謝いたします。この半年で充電したエネルギーを現場でぶつけていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



心に残る講話の数々

— 所内研修について —

糸満市立喜屋武小学校教諭 久米 洋子

期待と不安で緊張気味の入所初日。「三人行なえば 必ずわが師あり」という各自の名前の入った色紙を所長からいただきました。色紙を手にも、その言葉の意味や研修の心構え等、所長のお話を伺いました。厳しい口調の中に研究員への温かい心配りが感じられ、今までの緊張感がほぐれてくるとともに新たな決意が身内に漲ってくるようでした。

6ヶ月間の行事予定表を見ると、月、水、金は所内の行事がびっしりです。中でも所内での講話は27回もありました。島尻教育事務所所長講話が1回、管内の校長先生方が2回、指導講師8回、沖縄評価研究所の宮良先生1回、研究所所長5回、そしてお二人の指導主事合わせて10回、計27。振り返ってみればすごい回数だと思います。現場にいたら、多忙を理由に年に数回ぐらいしか研修に行けません。それが、研究所に来たおかげで居ながらにして27回も講話が聞けたのです。所報を書くにあたって、今一度振り返って、諸先生方の真意をしっかりと心に刻みたいと思います。

島尻事務所長には「組織の一員として、与えられた環境を生かすことが積極的な生き方につながる。」宮良先生には「各種検査の理論、その利用法、科学的なデーターを活用することも大事である。」管内校長先生お二人には、「学校制度と時代背景を基に学校図書館の歴史、これからの学校図書館の在り方」また「教師としての基本的な心構えとして、技術研修のみでなく社会人としての修養も大事である。」指導講師の先生方には、「私達教師が道徳性の価値を理解し、率先して模範実践することで、子供たちの道徳的実践力を育成することが重要である。」「幼稚園教育要領に沿って幼稚園教育の基本、目標」「特殊教育の種類と場、特殊学級について」「学級活動を学級経営に生かすということで、教師は学級を動かす情熱や指導性がなくてはならない。そのためにも学級活動を重視する。」「研修の大切さ、教師としての基礎基本や問題行動をする子供への対応の仕方等」「子どもに損をさせるな、全力を尽くせ、地域の教育力も大切である、授業のための教材研究を怠ってはならない。」「校内研修の意義として、授業実践との関連について考えることによって実践意欲を高める。協働化することによって深めていく。研究は理論と実践を兼ね備える。」「高度情報化社会において視聴覚教育は益々重要性を増している。視聴覚教材や教育機器の活用を図ることによって教育の効果が倍増する」などなど……

所長には、「研修員としての心構え、何をどう学ぶか、学んでほしいこと、また、今までの教える立場から学ぶ立場へと意識を転換し、書物はもちろん、いろいろな出会いの中から多くのことを学んでほしい、教育の変遷、文章の書き方、新しい教育観が生まれた背景や新しい学力観について、文学作品の読み方など新学期の心構え等々」お二人の指導主事には、研究のやり方について懇切丁寧に指導していただくとともに「研究の進め方、検証の方法、論文の書き方、21世紀を展望した我が国の教育の在り方、幼・小・中教育のねらい、社会解体時代の教育と社会心理。」

実践に裏打ちされたお話だけに、諸先生方のお顔は自信に満ち、生き生きとしていらっしゃいました。先生方の情熱が聞いている私達にもひしひしと感じられ、今まで多くの研修の機会を逸していたことをとても残念に思います。それと同時に自らの学ぶ姿勢の在り方を反省致しました。また、子供達に「自ら学ぶ力の育成を」といわれている中で、まず、私達教師が学ぶ姿勢を確立しないといけないのだということを強く認識致しました。

このような研修の機会を与えていただきましたことを関係市町村の方々を始め、南部振興会の皆様にお礼申し上げます。御講話いただきました島尻事務所の比嘉所長、評価研究所の宮良先生、新垣・金城の両校長先生、そして指導講師の先生方、研究所の宮城所長、上原・野原の両主事に心よりお礼申し上げます。今後の諸先生方のご活躍と島尻教育研究所の発展を祈念申し上げます。



「教える側」から「学ぶ側」へ

— 研究について —

南風原町立南星中学校教諭 座嘉比 幸 枝

私達5期9名の研究員は、宮城恒彦所長、上原幸得主事、野原廣子主事をはじめ南部広域行政組合の皆様方にお世話になりながら、毎日楽しく有意義に、そして充実して過ごさせていただきました。

数々の研修を重ねさせていただきましたが、ここでは、一人一人がテーマをもって臨んだ「研究」について述べたいと思います。研究の方法も順を追って紹介しながら、その間の研究室での光景や人間模様、印象に残る出来事などに触れたいと思います。

1. テーマを決定する

願書提出の際に、それぞれが研究したいと思っているテーマについては決まっていたはずなのですが、やはり漠然とした程度でしかなく、明確なテーマとその設定理由を考え直させられました。所長にいただいた「三人行なえば必ずわが師あり」という色紙の意味を実感させられる日々の始まりでした。

2. 研究計画検討会を経て理論研究に入る

テーマを決め、そのテーマを取り上げる理由についての説明を行なうのですが、自分の考えていることを的確に文章表現することの難しさに、改めて気づかされた日でした。

約二ヶ月後に検証授業を行なうために、理論研究や指導案作成に没頭する日々が続きました。学校現場では味わうことの少ないゆったりとした時間の中で、日頃あまり手にすることのない専門書を読むことは、久し振りに味わう贅沢な御馳走のようでした。枯れかけていた知識の泉も心の潤いも、温かなもので満たされていく快感でした。「教える側」から「学ぶ側」への気持ちの転換が図られた時期でもありました。

3. 検証授業を行なう

テーマを検証するための仮説に基づいて、学校現場で授業を行ないました。久し振りの子供達の笑顔と生き生きとした空気に包まれて、緊張しつつも授業への意欲をかき立てられました。授業後は、それぞれ役割分担した視点からの観察を述べ合い、検証を行ないます。普段の授業実践と違い、仮説が検証できるかどうかが一番のポイントです。事前の準備の度合いに応じて授業の深さが如実に表れ、努力不足を痛感させられた時でもありました。仲間や講師、主事の先生方、そして所長の厳しくも温かい御指導と助言を記録し、授業仮説の考察をする頃から、「研究」というものが徐々に分かってくるような気が致しました。

4. 中間検討会に向けてレポートをまとめる

平成9年も穏やかに明け、いよいよ研究のまとめの季節になりました。「テーマ」「テーマ設定の理由」「研究の全体構想図」そして「研究内容」「授業実践」「成果と課題」と10枚のレポート作成は、覚悟していた以上に難しいものでした。インフルエンザの流行に見舞われ、体調を崩しながらもワープロに向かう日々が続きました。お互いに切磋琢磨する中で、「友の情けに涙して…」と研究所逍遙歌の歌詞そのものの光景や「三人寄れば文殊の知恵」が真理であることを納得させられる場面が、研究室のあちこちで展開されました。まとめに行き詰まった時は主事や講師の先生方の適切で鋭い示唆がとてもありがたく、その力に導かれてゴールに近付くことができました。

5. 研究報告書検討会に向けてレポートを完成させる

研究の最終段階にさしかかりました。今まであまり磨く機会のなかった頭脳をフルに活用して、レポートまとめに集中した時期でした。ワープロの音だけがリズムカルに時を刻み、一日があっという間にたってしまうような充実感を覚えました。長い「研究」の道程を一山一山越えて来て、報告書が完成した時の感謝と感動の気持ちは、一言では言い表せません。研究所で見つけた「研究」の入り口は、学校現場に戻ってからの実践の方向を教えてください。今後の実践が「研究」の仕上げになるのでしょうか。

このような貴重な研修の機会を与えてくださった全ての方々に、心より感謝申し上げます。半年間の研修で得たことを基に、さらなる努力を忘れずに今後も精進したいと思います。



厳 し さ の 中 か ら

— 検証授業から学んだこと —

糸満市立潮平小学校教諭 又 吉 かおり

研究所に入所して6カ月、多くのことを学び充実した日々を過ごせました。この研修期間、幼稚園2名、小学校6名、中学校1名、計9名の私達研究員は、それぞれの研究テーマをもとに研修に励んできました。この期間中で、特に厳しく、そして力をつけることができたのは検証授業でした。自分自身やほかの研究員の検証授業を通して、これまでの自分の考え方や教師としてのあり方を見つめ直すことができました。

幼・小・中学校の子どもたちをみつめて

目を輝かせ教師の話に耳を傾ける子どもたち、どの子も生き生きとし、活動することの喜びに満ちていました。子どもたちは、精一杯成長し続けていることをあらためて感じることができました。幼稚園児は、自分の思いを顔いっぱい豊かに表現し、中学生は、成長した自分らしさを主張している面持ちで学んでいました。小学校の教師である私にとって、幼稚園や中学校の子供たちの授業を見せてもらえることは、大きな収穫でした。子供たちを育てていくことの大切さ、そして教師という仕事の重要性を再認識させられました。また、子供たちのよりよい成長を支援するためには、幼・小・中学校が連携していくことが重要であり、教師として、学校教育の一貫した流れを見通して、その段階に応じた教育活動を行うことの必要性を痛感させられました。

教師としての目を育てる

検証授業は、研究課題解決の方策として、テーマを基に立てた研究仮説を検証することを目的として行われます。そこで、授業には、研究員それぞれが「教師の指導の観察」「児童の全体的な観察」「抽出児童の観察」と、みる視点を分担して参観しました。検証授業を重ねるうちに研究員には、自分の分担された視点から鋭く授業を見、そして授業者の研究内容を検討していく目が育ってきました。さらに、検証授業によって、自分自身の研究の不十分な箇所が明確になり、厳しく自己の研究を見つめ直す目も育ってきました。また、厳しさの中から、多くの事を学ぶことができました。検証授業を実施する前の準備を通して、いかに児童の実態を把握して個に応じた支援を行うか、意欲をかき立てるような教材づくりを行うかということの重要性を身を持って感じることができました。授業の実施後には、自分の努力不足を痛感させられるとともに、仲間や指導講師、主事の先生方そして所長の厳しく鋭い指導と助言で、教師としての指導のあり方が徐々に分かってきました。

複式学級での授業を通して

最初、複式学級で授業を実施することは不安でした。複式の経験も皆無の上、子どもたちの様子も分からなかったからです。しかし、離島の学校に協力していただき、何度か授業を見せてもらうなかで、教師として児童を指導する際の配慮と授業計画立案の工夫等が見えてくるようになりました。ところが、研究を進めていく中で、複式で二個学年指導する場合に行う特別の配慮は、実は普通学級でも行うべきことだということに気がついてきました。複式のための学習指導の工夫をする中で、今までの自分の指導の足りなかったところがはっきりと見えてきました。私にとって、複式学級の指導はいろいろな意味で学びの多いよい経験となりました。

研究所の逍遙歌に「指導の道を究めんと」とあるようにそれぞれの研究を進めてきましたが、そのとき感じたのが、研究の仲間に恵まれたことです。研究についてお互いの考えを出し合う中で、自分自身が磨かれてきたような気がします。互いに厳しく、そして温かく、過ごして来れたのも素晴らしい仲間と出会えたからだと思います。

さらに、私たち研究員を支え、指導・助言を下さった宮城所長、指導講師の先生方、上原指導主事、野原指導主事をはじめ多くの方々のおかげで、自分の研究の目指す方向性が見えてきました。研修の成果が生かせるようにこれからも学び続け、教師としての研鑽を深めていきたいと思っています。



視野を広げる教師

— 所外研修から学んだこと —

豊見城村立伊良波幼稚園教諭 上原 則子

幼稚園の現場を離れて、研究所の門をくぐったのも、つい先日のように思われます。ワープロが全くできないという大きな不安と、もっと勉強がしたいという期待に胸がふくらんでいたことをいまでも鮮明に覚えています。研究室のテーブルの上には、先輩の4期生からの激励の言葉と可憐な花があり、温かい心づかいの中で入所の日を迎えることができました。研究所での毎日は、それぞれテーマに沿って心と頭を磨くよい機会でしたが、テーマに沿って日々の研究活動のほかに研究所外での研修、視察も、とても有意義なものでした。研修期間中、実に多くのことを学び、充実した日々を過ごすことができました。

所外研修では、島尻養護学校、県立盲学校を訪問したり県衛生環境研究所、北谷浄水場、那覇家庭裁判所、沖縄国際センター、児童相談所、OCC(株)、沖縄少年院、沖縄女子学園、沖縄県警本部、県議会などの数多くの学校関係や国や県関係の施設を見させていただきました。

情報化、国際化時代の中で、21世紀を担う子供たちの教育のためには、コンピューターの活用が不可欠になるといわれています。しかしその教育を担当する私たち教師がコンピューターを操作できなければ、未来に生きる子供たちに対して、十分な教育ができなくなります。そういう意味からも、専門職員によるパソコンの実技指導は意義深いものがありました。

また沖縄国際センターでは加藤所長からセンターの概要を伺い、海外からの技術研修員の受け入れ、医療、教育等の開発途上国への援助が行われていることがわかりました。そのことから、国際交流のため日本が重要な役割を担い、世界に貢献していることを知りました。そしてこのような施設が沖縄にあることを誇りに思います。

12月には、北谷浄水場の視察がありました。学校現場においてはなかなか見ることでできない、海水淡水化施設、高度浄水処理施設を見学させていただき、ハイテクノロジーのすばらしさを改めて認識致しました。また科学の進歩と、それを創造し駆使する人間の叡智に感嘆しました。このような所外研修を通して情報の大切さを知りました。忙しさを理由に教育現場に埋没してしまい、視野が狭くなりがちな私たちです。豊かな情報を得るためにも、努めて社会に眼を開き、研鑽に励まなければならないと、意をあらたに致しました。このような、数々の所外研修を通して、広い視野で物事を見つめ、いろいろな角度から教師という職業を考え直すことができました。

6カ月の研修生活で良き指導者に恵まれたこと、個性あふれる仲間と出会えたことは、とても有意義な機会であり、一生の宝を得たように思います。全くできなかったワープロも必要に迫られて練習したところ、なんとかレポートが作成できるようになりました。また、人前で自分の意見を述べるのが苦手な私でしたが3分間スピーチ等の訓練で少しは抵抗なく話せるようになり、少々自信につながったような思いでうれしい限りです。人間やる気さえあれば何でもできるようになるということを、実感させていただきました。このようなすばらしい貴重な研修の機会を与えてくださいました豊見城村教育委員会、快く研修に送り出してくださいました伊良波幼稚園の金城一夫園長初め職員の皆様に、深く感謝申し上げます。今後は島尻教育研究所の5期生としての誇りを持ち、幼児教育に邁進していきたいと思っております。



感動と親睦の四日間

— 県外研修旅行 —

知念村立知念小学校教諭 玉 城 智 子

“グローバルに秋を楽しむ旅”と銘打って、かんなの会は11月4日～7日の3泊4日の研修旅行に出かけました。行く先は、晩秋の東北地方です。修学旅行の生徒のように胸を弾ませ、忙しい研修の合間をぬっての準備も和気あいあいと進めることができました。学校現場では、なかなか経験できないこの時期の旅行は、見識を広める上でもとても有意義でした。沖縄では味わえない微妙な季節感、生活の匂い、文化財との出会い等、見るもの聞くもの全てに感動致しました。また、入所もない11月の旅行は、研究員一人一人のよさを知り親睦を深めるよい機会ともなりました。折しもその年は、宮沢賢治の生誕百年ということもあり、彼の文学について深く知るよい機会にもなりました。事前に「わが心の銀河鉄道」の映画鑑賞をし研修旅行に臨んだので、宮沢賢治をより身近に感じられるようになりました。四日間の旅の一駒を紹介したいと思います。

〈11月4日〉旅のはじまりは仙台から

午前8時50分に那覇空港を出発、仙台に着いたのが15時23分。長い移動時間にもかかわらず、皆元気でこれからの旅行を存分に楽しもうと期待に胸を膨らませる。最初の見学地の青葉城址では、伊達政宗像の前で美しい仙台市内を眺めながら記念撮影。伊達政宗のように凛々しく写ったかな？夕暮れの仙台市内を後にして、一路松島へ。旅は、食の楽しみも見逃せない。松島のホテルでは豪華な料理に感嘆し、ダイエットを気にしつつもいつの間にか食べつくしてしまった。

〈11月5日〉みちのくの旅はいにしへの旅

松尾芭蕉の俳句にも歌われている風光明媚な松島。松島湾に浮かぶ小島をぬけながら心は遠くいにしへの時代にタイムスリップ。瑞巖寺・五大堂・中尊寺等日本を代表する国宝・重要文化財に触れ、改めて日本文化を誇りに思う。巖美溪・毛越寺では紅葉が真っ盛りで、絵画の世界にいるような錯覚を起こしてしまうほどの美しさ。「子供たちにも見せたい」「この感動を伝えたい」という思いで胸がいっぱいになる。

〈11月6日〉文学へのいざない

ホテルの方々の心のこもったもてなしと温泉で心も体も暖まり、もう一度訪れたいという気持ちになった。教育は利潤の追求ではないけれども、心のこもった対応のしかたには学ぶべきものがある。

岩手県では、宮沢賢治記念館・高村光太郎記念館・石川啄木記念館等をまわった。その中でも、高村光太郎が7年間住んでいた山荘は、印象深く心に残っている。自然が厳しい地方だからこそ自分にも厳しくより磨かれた作品が生まれたのだろうか。

日もとっぷりと暮れ十和田湖に急ぎ向かっている峠の途中で、車のヘッドライトに映る雪を見たときの皆の歓声は、地元の運転手を驚かせるほど。車を止め、外に出て雪を口にはおぼるのは沖縄の私たちだけかもしれない。

〈11月7日〉なすことによって学ぶ

研修旅行最後の日、十和田湖遊覧・奥入瀬溪流散策・八甲田山・りんご園等と慌ただしく過ぎていった。八甲田山では、生まれて初めての雪合戦を体験し童心にかえって楽しむ。私たちにはうれしい雪も地元の人にとっては、恐ろしいものだということを聞き、北国の生活の厳しさを少しわかったような気がする。

最後に、研修旅行もさることながら6カ月の研修は私にとって大変有意義なものでした。第5期の愉快的仲間と宮城恒彦所長を初め、野原廣子指導主事、上原幸得指導主事というよき指導者に恵まれたからだと思います。また、指導講師として忙しい中、研究の指導をしていただいた高良清吉先生、快く研修に送っていただきました知念小学校の親川正雄校長他、諸先生方、半年間お世話になった多くの皆様に感謝いたします。学校現場に戻りましても、研究所で学んだことを生かしていきたいと思っています。



島尻教育研究所の一日

糸満市立高嶺幼稚園教諭 屋比久 トシ子

緑に囲まれた静かな環境にあるここ島尻教育研究所の一日は朝のミーティングから始まります。毎週月曜日、水曜日、金曜日の週3回は所長を交えて教育、家庭、社会について考えを深める時間です。月曜日は所長、指導主事からの講話を中心に教育の今日的課題について考えさせられる時間でした。水曜日は「外山滋比古」の著書を基に教育について考え、金曜日は研究員の提案による3分間スピーチを行いました。このような時間をもつことにより物の見方や考え方などを学びました。ある時は、「人生論」のような難しい話や、又、ある時は家庭のホットな話題が飛び交うこともあり、話に花が咲き、時間が過ぎるのも忘れてしまうこともありました。話が終わると、島尻教育研究所逍遥歌などみんなの歌声が響き合い、和やかな雰囲気になります。その後、自主研修の時間で各自が研究を深めます。最初の頃は、座ってじっとしていることが苦痛でしたが、次第に研究に没頭するようになり、幼稚園では味わえない良さを感じました。昼食時間になると、各自手作りのお弁当をテーブルに広げていただく時は、気分もゆったりしてとても楽しい一時でした。寒い日には冷たいお弁当より学校の温かい給食が恋しくなる時もありました。お弁当の後の休憩時間は上原主事から三線を教えてもらいました。研究所で初めて手にした三線ですが、基礎から丁寧に指導してくださったお陰で「安波節」、「四季口説」、「道輪口説」が弾けるようになりました。沖縄の伝統文化を大切にすることは、次の世代を担う子供達にも必要なことであり、学校現場へ戻っても続けていきたいと思います。

研究所では一日一日変化に富んだ出来事があり、生活に潤いを与え、とても充実した日々でした。そして、何よりも素晴らしい仲間に出会ったことが大きな収穫だと感謝しております。

この8名の研究員を簡単に紹介します。

金城欣也さん：体格が大きくがっちりしていて、とても頼もしい。心が優しく繊細で計画実行型。

與那嶺政秀さん：父親業と研究生を両立させている三児のパパ。堅実に仕事をこなす。

上原則子さん：入所してすぐにワープロを練習し、今では20枚のレポートを完成させるほど上達。

久米洋子さん：女性らしい優しさと男性のような企画力と行動力を兼ね備えた肝っ玉母さん。

又吉かおりさん：年の割には考え方がしっかりしていて、意見を述べる時は感心させられる。

玉城智子さん：すべての人を受け入れてくれる心の温かい女性。着実に研究を進めている。

平良幹子さん：物知りで知的好奇心の旺盛な方。いつも新鮮な話題を提供してくれた。

座嘉比幸枝さん：「言葉を磨く」ことに専念する彼女は、頼もしい国語教師。オタスケマン的存在。

このような素晴らしい仲間に出会い、研究が進められたことに感謝の気持ちで一杯です。今後も島尻教育研究所5期生が親睦を深めていくよう「かんなの会」を発足いたしました。末長く続くことを願いたいと思います。

最後になりましたが、この6カ月間たいへん有意義な生活が送れました。この機会を与えてくださいました糸満市教育委員会、南部振興会、関係各位の皆様方に感謝を申し上げます。研究を進めるにあたり、ご指導くださいました県教育委員会指導主事の金城恵子先生はじめ研究所の宮城恒彦所長、野原廣子主事、上原幸得主事の温かい心づかいが何よりの支えとなり、たいへん心強く研究を進めることができました。

この機会に学んだことを今後の保育実践に生かし、努力していきたいと思います。



研 修 を 終 え て

糸満市立糸満小学校教諭 平 良 幹 子

教室に心を残したまま、後ろ髪を引かれる思いで入所したのは10月1日の事でした。学校では、運動会の後の、熱気や興奮を鎮めるかのように、読書月間に入る初日でした。入所1週間はクラスの子供達の顔がちらつき、なんとなく落ち着きのない日々でしたが、日を重ねるうちにそれどころではなくなっていました。宮城所長の「ここでの研究は決して強制ではありません、好きなように自由に過ごして構いません。しかし、本だけはしっかりと、たくさん読んで下さい。必要な本があれば図書室にあるものと重複しないようにして購入計画を出して下さい。」といわれた言葉の重みが、日1日と心に広がっていきました。

まずは図書室の、自分のテーマ・研究に関係のありそうな図書のリストアップから始めました。その本を読み進めていくうち、本の中に書かれている別の参考資料も読みたくなり、本屋さんへ本の購入へ行きました。そこでまた別の新しい本に出会いました。個人で欲しい本も見つけ、個人用にも買い込みました。研究所の方策や指導主事の示唆、雰囲気作りの中、知らず知らずのうちに本の世界にいざなわれていったものです。いつしか、壁を向いて机に座るのも板に付いた頃、最初の研究計画検討会が10月21日に行われました。ねらいとして・研究員相互、主事等と研究計画書の検討を重ねる事により、より焦点化された研究ができるようにする。その他等々でした。文字通り研究最初の突破口でした。テーマや目標とするものは決まっているものの、その入り口というか、踏み込み方に見当がつけられず、家へかえってからもあるあてもないこうでもない、夜中まで迷い、悩み続けたものです。ようやく、第一段階のレポートをまとめ上げた時の嬉しさは、以後の研究に大いなる自信をつけたような気が致します。

また、研修生のほとんどがこちらの研修期間で必要に迫られたとはいえ、ある程度までワープロを使いこなせるようになったことでした。主事や研究員、家族等、周りの者皆に励まされ、見守られながら恐る恐る文字を打ち、1枚2枚とレポートを作り上げていきました。それこそ私達にとっては、汗と涙と人の心の温もりと思いやりを、織り込んでいたような気持ちでした。

第2段階、第3段階とレポート提出、発表、検討会と回を重ねていくうち、見えなかったものが段々と読めるようになり、理解が深まってきた時の喜びと嬉しさと満足感は例え様がありませんでした。その影に、じっくりと目を通した的確なアドバイスを、一人一人にも懇切丁寧に指導を進めて下さった所長・指導主事・指導講師の諸先生方の、大きな大きな力を、決して忘れることはできません。それはまたとりも直さず、自分の仕事にも即生かしていこうと心に刻み込んだものです。

所長からの時宜を得た、時節の折々に賜ったプレゼントの品々は、感謝と共に単調な私達研究員の一日に、華やかな笑いと楽しさを添え、人の情けの素晴らしさを改めて確認する体験となりました。指導主事お二人の知識の豊富さ、卓越した指導性には唯唯、驚嘆するばかりです。研究生のレポート片手に、私達と顔をあわせて熱心に、時にはさりげなく、しかしあくまでも控え目に優しく、御助言なさるお人柄の良さには、人間としてのお手本を感じずにはられません。指導講師の先生方も、お忙しい仕事のスケジュールとにらみあわせ、やりくり算段しながらも、夜遅くまでほんとに私達研究生へ献身的にご指導、ご尽力くださいました。心より感謝申し上げます。

この半年間の研修期間、それぞれのお立場や、関わりの中で誠意ある数多くの事を学ばせて頂きました。人生いかに生きべきか、人としてどうあるべきか、人を教え育てるとはどういう事か、仲間や家族の存在とは等々、しっかりとお言葉で、又は態度で、後ろ姿で、生き方で、私達に力強く示して下さいました。これから私達はそれぞれの職場、地域、において島尻教育研究所で学んだ事を最大限に生かし、残された研究課題の解決にも精進して参りたいと存じます。特に職場に有っては快く協力体制で臨んで下さった校長先生初め職員の方々に感謝の念でいっぱいでございます。今後、研修の成果を発揮して少しでもご恩に報いるよう努力したいと思っております。諸先生方、本当に沢山のおみやげをどうもありがとうございました。島尻教育研究所の限りない発展を祈念申し上げます。

郷土の民話やわらべうたを通して、

心豊かな幼児の育成を図る保育の実践

糸満市立高嶺幼稚園教頭 屋比久 トシ子

1 保育実践にあたって

民話が幼児の心を育てる働きは、民話によって幼児の心にもたらされる文学的経験にあるといわれている。民話に登場する主人公の行為に、ときには同化し、ときには共感し、ときには反発したりしながら、それを心の経験とする。民話によって生きる意欲には欠かせない希望と、成長には欠かせない冒険、そして心の安定に必要な安らぎを自分の心の経験とすることで、心を豊かに発達させていく。

保育にあたる者が地域の伝統文化が凝縮された民話やわらべ歌をそこに生まれ育つ幼児に教材化し、実践することは意義のある事だと考え、以下、調査研究にもとづく実践を試みた。

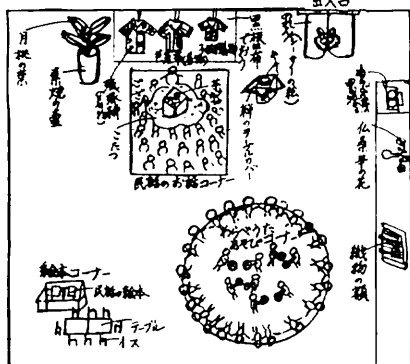
2 検証保育細案（糸満市立 高嶺幼稚園における実践）

ねらい 民話やわらべ歌に触れ、生活に取り入れることの楽しさを知る。

活動 「鬼ムーチー」の話を聞く。わらべ歌をうたう。

予想される活動の流れ		教師の援助
9:40	○みんなでわらべ歌をうたう ・赤田首里殿 ・いっちくたっちく ・まりつきうた ○民話「鬼ムーチー」の話を聞く ・楽な姿勢で座って聞く ・喜んで話を聞く □ 黒板 □ 先生 ○○○○○○ ○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○話を聞いて感じたことを、みんなで話し合う ・思ったことを話す ・人の話を静かに聞く	○今の生活との違いに気づかせる。 ○みんなと一緒に楽しい雰囲気であう。 ○簡単な振り付けをしながら、伸び伸びとあう。 ○友だちとの関わりを楽しみながら遊ぶことに気づかせる。 ○言葉のおもしろさに気づかせ、楽しんで歌うようにする。 ○歌に合わせてまりつきをし、友だちのまりと交替することを楽しみながら遊ぶようにする。 ○まりつきをしている友だちに手拍子をしながら合わせてあげる。 ○民話「鬼ムーチー」の紙芝居の話をしながら子供の表情や反応を把握する。 ○方言のおもしろさに気づかせるように強調したり変化をつけて話す。 ○イメージをふくらませるように、読み方を工夫する。
10:30	○ムーチー作りに期待をする	○幼児一人一人の話を聞き、感動したり、共感したりする。 ○一人一人のつぶやきや表情を受けとめるよう心掛ける。 ○ムーチー作りに期待を持たせるように終わる。

保育室環境の設定



《考察》

- ・環境の構成によって幼児のイメージを膨らませ、活動の導入がスムーズにできた。
- ・郷土のわらべうた「いっちくたっちく」を「かごめ」の遊びとの組み合わせにより自然な形で導入することができた。
- ・幼児の内面の変容を期待しストーリーを回想させ思考を深めるために静かにページを綴っていく時間をとった。幼児自身の心の中には様々な感動体験を味わった様子が、ひとりひとりの表情から伺えた。

3 民話の分類

民話	神話	神話（聖性神話・俗性神話）……神を主人公とする話・神についての話	
		伝説	自然伝説……………自然の起源・由来に関する話
			信仰伝説……………聖地や信仰に関する話
			文化伝説……………文化・事物に関する由来話
			歴史・人物伝……………歴史的事件・人物に関する話
	昔話	動物昔話……………動物を主人公とする話	
		本格昔話……………人間を主人公とする話	
		笑話……………笑いを主題とする話	
		世間話……………話者の身近な人についての話・体験談	

昔話はその内容によって、下記のように分類される。

昔話	動物昔話……人間化した動物を主人公とし活躍させる話でその多くは短い話である。
	本格昔話……完形昔話や昔がたりとも呼ばれる。人間を主人公とする話で、ストーリーは昔話の中でも最も変化に富むものが多い。ただし、継子話などのなかには、短い話もある。
	笑話……知恵で課題を解決する話や技を比べる話など笑いを主題とする話で、個性ある主人公が活躍する話が多く、ストーリーは短い話が多い。

（沖縄国際大学遠藤庄治の資料より抜粋）

4 沖縄のわらべ歌の分類

数多くあるわらべ歌の中から、遊びを伴う歌と自然をうたった歌に分類してみた。

分 類		わ ら べ 歌
遊 び の 歌	か ぞ え 歌	・いっとがよー ・ていたーみーゆー
	は や し 歌 悪 口 歌	・三良叔父 ・いきがとう ・いなぐとう ・大和おくさん ・常小屋敷ぬタンメーサイ ・わーがさびらん ・いったおとうやー ・ゆうなん木はーめー ・山原ーが入っちょんどー ・久高まんじゅー王
	指 ・ 手 身体の遊び歌	・大人他人 ・ふーゆべまー ・ちんくわーんとーふん ・いゆのみーたーくぬみー ・いっちくたっちく ・にょーよーにょー ・みーみんめー ・うるくとみぐしく ・赤田首里殿内 ・おーがれせーがれ ・でーじぬぐんかん ・天のとーとーめーさい ・こーじゃー馬小
	まり つ き 歌	・なふあぬまーいや ・ていちゃてぐくん ・しじゅくなるまでい
自然を うた った 歌	動 植 物 の 歌	・花ぬかじまやー ・じんじん ・じんじんとくけー ・スーリぐんば ・ちんなんちんなん ・べーべーふ草 ・ちょっちょい小 ・いゑーガラサー ・キーモーモー
	天体気象の歌	・ぬーじぬーじ ・なーみなーみ ・大雨やーていん ・雨まーよー ・雨ぶん風ぶん ・あーみーどーい 月ぬかいしゃ ・アカナー家がやきとんどー ・桑木ぬ下でーびる ・あかな
	行 事 の 歌	・いー正月やー ・三月三日 ・五月五日 ・七月七日
そ の 他	わ ら べ 歌 教 訓 の 歌	・子守歌（耳ちり坊主、ちんぬくじゅーしー） ・ていんさぐの花

5. 幼稚園における沖縄の民話やわらべ歌に関するアンケート調査結果

対象：島尻地区公立幼稚園教諭

※アンケートの目的：幼稚園において沖縄の民話やわらべ歌の利用状況を調査・把握・分析し、今後の保育に生かす。

※方法：郵送で配布

※実施：平成8年10月22日～11月8日 回収率83%（139名中、116名提出）

教諭の年齢：20代…25名 30代…17名 40代…69名 50代…5名

(1) 沖縄の民話について

質問 1	あなたは子供の頃、沖縄の民話を聞いたことがありますか。	答	ア、よく聞いた 17% イ、少し聞いた 70% ウ、聞かなかった 13%
質問 2	沖縄の民話を誰から聞きましたか。	答	ア、祖父 5% イ、祖母 39% ウ、父 20% エ、母 40% オ、おじかおば 5% カ、近所の方 7% キ、その他（先生・友達・テレビ・本）18% ※複数回答
質問 3	どのような民話を聞きましたか。	答	別紙
質問 4	幼稚園で民話を教材として利用していますか。	答	ア、よく利用する 3% イ、時々利用する 55% ウ、あまり利用しない 41%
質問 5 ※質問 4・ア、イの方	沖縄の民話の語り聞かせや読み聞かせをする時、子供の反応はどうですか。	答	ア、興味を持って喜んで聞く 36% イ、普通 24% ウ、あまり反応がない 4%
質問 6 ※質問 4・ウの方	あまり利用しないのはどうしてですか。	答	ア、自分がよく知らないから 31% イ、子供が興味を持たないから 1% ウ、その他 2%

〈考察〉

- ・子供の頃に民話をよく聞いた教師は、園児への教材として、民話をよく利用していることがわかる。
- ・話し手が、祖母又は母と答えたのが多い。従って民話から母乳のような温かいぬくもりを感じる。
- ・地域によって民話の違い、それぞれの地域性が見られた。
- ・民話を教材として利用していない教師は、自分自信がそれをよく知らないということが理由となっている。

(2) 沖縄のわらべ歌について（教師）

質問 1	あなたは、沖縄のわらべ歌を知っていますか。	答	ア、知っている 89% イ、知らない 7% ウ、回答なし 4%
質問 2 ※質問 1・アの方	どのようなわらべ歌を知っていますか。	答	・じんじん 63名 ・こーじゃ馬小 13名 ・ていんさぐぬ花 41名 ・ちんぬくじゅーしー 9名 ・いったーあんまー 36名 ・小禄豊見城 7名 ・まーかいがー 36名 ・大村御殿 2名 ・赤田首里殿内 35名 ・安里屋ユンタ 1名 ・いっちくたっちく 35名 ・アーミードーイ 1名 ・花ぬ風車 24名
質問 3	あなたは幼稚園で沖縄のわらべ歌を教材として利用していますか。	答	ア、よく利用する 9% イ、時々利用する 62% ウ、あまり利用しない 29%
質問 4 ※質問 3・ア、イの方	沖縄のわらべ歌を教材として利用する時、子供の反応はどうですか。	答	ア、興味を持っている 44% イ、普通 29% ウ、あまり反応なし 7%
質問 5 ※質問 3・ウの方	あまり利用しないのはどうしてですか。	答	ア、自分がよく知らないから 73% イ、子供が興味を持たないから 3% ウ、その他（機会をつくらないから） 15%

〈考察〉

わらべ歌は、ほとんどの教師が知っており、時々利用しているのが多い。子供にとっても、興味を持っていることがアンケートの結果に表れている。

あまり利用していない理由として、自分がよく知らないからというのが大方である。このようなことから幼稚園において、もっと教師がわらべ歌に親しむ環境づくりをすることが大切であると思われる。

質 3 内訳 どのような民話を聞きましたか。

民 話 名	人 数	民 話 名	人 数
キジムナー	43	真玉橋の由来（七色ムーティー）	25
ムーチーの話	22	耳切り坊主	16
モーイ親方	10	運玉義留	9
白銀堂の由来	9	逆立ちユーレー	5
羽衣伝説	5	アマミキヨ シネリキヨ	4
トントンミーとキジムナー	3	浜うり	3
マジムンの話	2	クラー小	2
ユーレー	2	サンテンモー	2
三本	1	多幸山の盗賊	1
天女とトビンス	1	ハブの恩返し	1
不思議なナタの話	1	フクターウスメー	1
吉屋チルー	1	白へび伝説	1
すずめの親孝行	1	オヤケアカハチ	1
赤田首里殿内	1	ハンドバッグユーレー	1
うんすいおしょう	1	ウニギラマー	1
こがねのうりざね	1	恩納マカトー	1
ヒーヒリウンザニ	1	マブヤーの話	1
ウチカビの話	1	犬の足	1
ハブの話	1	子育てユーレー	1
へこき三良	1	ふなひき太郎	1
ふしぎな話	1	ハーリーの話	1
赤犬	1	アメ買いユーレー	1
津嘉山の綱引きの由来	1	シンマヌヘイ	1
ヨーカビー	1	うさぎとかめ	1
さるとねこ	1	さるの生き肝	1
ねことトラ	1	ガジャン坂の話	1
ガーナムイの由来（小禄）	1	12支の由来	2
アカマター	2	ニヌファブシ	1
びんぼう神	1		

6. 沖縄の民話やわらべ歌についての保護者へのアンケート調査結果

対象：高嶺幼稚園全保護者

※アンケートの目的：家庭での民話やわらべ歌に対する
利用状況を調査・把握・分析し、
今後の保育に生かす。

※方法：園児を通して配布し、保護者が記入する。

※実施：平成8年10月22日～25日 回収率：93%

(60名中 56名提出)

保護者の年齢：20代…8名 30代…39名 40代…9名

(1) 沖縄の民話について

質問 1	あなたは子供の頃、沖縄の民話を聞いたことがありますか。	答	ア. よく聞いた 18% イ. 少し聞いた 56% ウ. 聞かなかった 26%
質問 2	沖縄の民話を誰から聞きましたか。	答	ア. 祖父 6% イ. 祖母 30% ウ. 父 12% エ. 母 33% オ. 兄 1% カ. 姉 1% キ. おじ 1% ク. おば 3% ケ. 近所の方 4% コ. その他 11% ※複数回答
質問 3	どのような民話を聞きましたか。	答	別紙
質問 4	あなたは最近沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをやっていますか。	答	ア. やっている 5% イ. やっていない 95%
質問 5 ※質問 4・ア、イの方	どのような沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをしていますか。	答	別紙
質問 6 ※質問 4・ウの方	沖縄の民話の語り聞かせや読み聞かせをやらないのはどうしてですか。	答	ア. 自分がよく民話を知らないから 72% イ. 忙しいから 11% ウ. 子供が興味を持たないから 4% エ. その他 13%
質問 7	家族で一番よく沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをするのはどなたですか	答	ア. 祖父 9% イ. 祖母 32% ウ. 父 6% エ. 母 30% オ. 兄 2% カ. 姉 2% キ. おじ 1% ク. 回答なし 1% ケ. その他 17%

質 5 内訳 どのような沖縄の民話の語り

質 3 内訳 どのような民話を聞きましたか。

聞かせや、読み聞かせを実践していますか。

民 話 名	人数	民 話 名	人数
キジムナー	25	ユニムーチー物語	7
真玉橋うれい	5	嘉手志川の伝説	4
白銀堂物語	4	七色ムーティー	2
吉屋チルー	2	カエルとカラスの知恵くらべ	1
クジャミと赤ちゃん	1	北谷モーシー	1
運玉義留	1	武士松村	1
名護親方	1	赤マターの伝説	1
護佐丸	1	チョウ阿波根親方	1
首里城にまつわる話	1	東里のヤンバル船を引く話	1
12ひとえ	1	トマイアーカー	1
ユシアチール	1	丘の一本松	1
昔の力持ち	1	耳切りぼうず	1
ウズノのゆがたい	1	通り池（下地島）継子話	1

答	・沖縄民話絵本集を読んであげたことがある ・沖縄の民話というより童話の話が多い ・行事等の由来（例えば、つなぎきやムーチー、旧の3月3日） ・キジムナー（2名） ・とんとんみーとキジムナー ・ムーチーの由来 ・ガーナムイの由来 ・奥武山のみみず ・ネズミとヤドカリ
---	--

(2) 沖縄のわらべ歌について（保護者）

回収率：93%

質問 1	あなたは、沖縄のわらべ歌を知っていますか。	答	ア. 知っている イ. 知らない	64% 36%
質問 2 ※質問 1・アの方	どのようなわらべ歌を知っていますか。	答	別紙	
質問 3	あなたは現在子供にわらべ歌を歌って聞かせますか。	答	ア. よく歌う イ. 時々歌う ウ. 歌わない	0% 28% 72%
質問 4 ※質問 3・ア, イの方	あなたはどんな時にわらべ歌を歌いますか。	答	・学校で歌を習ってきた後 子供と一緒に歌う ・畑仕事をしている時 ・子供と一緒に遊んでいる時 ・寝る時 ・テレビで沖縄のわらべ歌が流れた時 ・時々、急に思い出して歌う ・車中で ・子供達が歌っている時 ・台所仕事をしている時	2% 2% 4% 9% 2% 2% 6% 2% 4%
質問 5 ※質問 3・ウの方	なぜわらべ歌を歌わないのですか。	答	ア. 自分がよく知らないから イ. 忙しいから ウ. その他	82% 5% 13%

質 2 内訳 どのようなわらべ歌を知っていますか。

わらべ歌名	人数	わらべ歌名	人数
ていんさぐぬ花	14	イッチクタッチク	7
チンヌクジュシー	12	徳利小	4
じんじん	12	小禄豊見城	2
耳ちりぼうず	10	海のちんぼうらー	1
いったーあんまーまーかいが	7	ミルクゆがふ	1
花ヌカジマヤー	7	汗水節	1
赤田首里殿内	5	安里屋ユンタ	1
久高満寿主	2	こーじゃー馬小	1
山羊の草刈り	2	とーとーめーさい	1
大村御殿	2	月ぬ美しや	1

《考察》 1

- ・沖縄の民話は、おばあちゃんやお母さんから聞いたという人が多い。そのことから、民話は子供を育てていくための心の栄養となる、母乳のような役割をしていることが伺える。
- しかし、現在は、沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをやっていない人が圧倒的に多い。
- このようなことから沖縄の民話の語り聞かせや、読み聞かせをする環境が必要であることを痛感させられた。

《考察》 2

- ・過半数の保護者がわらべ歌を知っているが、実際にはあまり歌っていない人が多いようである。
- ・歌っていないのは「歌詞等十分に知らないから」という人がほとんどである。
- このような結果から保護者はわらべ歌を聞いて知ってはいるが、子供に歌って聞かせるということはやっていないということが明らかである。もっと、家庭でわらべ歌を歌うような環境づくりが大事だと思う。

5 沖縄の民話やわらべ歌の年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域行事	・シーミー（清明祭） ・浜ウリ 旧三月三日	・母の日 ・アブシバレー（悪虫払い）	・慰霊の日 ・ハーレー（旧五月四日）	・カチャーシー（新米収穫祝）	・んと遊ぼう ・おじいちゃんやおばあちゃん ・旧引き 真栄里 ・旧十五夜	・旧カジマヤー祝	・首里文化祭	・冬至 ・トゥンジー	・ムーチー ・正月	・初拝み	・ウマチー
民話	・月の子アカナー 「アカマターの話」 ・浜ウリの由来	・母の木 ・あめ買いユレー	・戦争体験の話 ・ハーレーの話	・嘉手志川伝説	・綱引きの由来 ・かえるの綱引き	・カジマヤーの由来 ・へこき三良 ・くらやみのキジムナー	・耳切り坊主	・国吉城の伝説	・鬼ムーチー ・十二支の物語	・南山城跡の話 ・白銀堂の由来記	・南山城跡の話 ・ムーチー親方
わらべ歌	・アカナー	・ちんぬくじゅーしー ・イッターアンマー ・まいかいが	・アーミードーイ ・コージャーマ小	・じんじん	・ていんさぐぬ花	・花ぬカジマヤー ・チョンチョンキジムナー	・大村御殿 ・赤田首里殿内	・いっちくたっちく ・徳利小	・まりつきうた ・いい正月や	・赤田首里殿内	・イービン小
ねらい	・女の子の成長を祝う	・母の愛を知り感謝する	・強さ・たくましさ ・やさしさ	・公共の施設を大切にする	・綱引きの話聞き地域行事に関心を持つ	・民話のおもしろさを感じ親しみを持つ	・沖縄の文化に興味を持つ	・季節によって生活の変化を感じる	・新年を祝い干支に関心を持つ ・鬼ムーチーの伝統行事を知る	・地域の民話に興味・関心を持つ	・民話の語り聞かせに興味を持ち心情を豊かにする
家庭・地域との連携		・母が幼いとき親から聞いた民話やわらべ歌を各々聞かせてもらう。	・遠足などで平和記念公園に行き戦争のころの人々について聞く。		・真栄里の綱引きについて園で地域の方に話してもらおう。			・国吉城の伝説についてその地へ出向き古老に話してもらおう。		・地域の方に語り聞かせをしてもらう。	・地域の方に語り聞かせをしてもらう。
教師の配慮	・幼児にわかりやすい内容に話す。	・お母さんのいない幼児への接し方に気を配る。	・園長先生が実際に戦争を体験したことについて話す。	・嘉手志川へ行って話す。	・話（方言）がわからない時には共通語でわかりやすく話す。	・自分達で作った風車を持って踊る。	・写真や新聞記事を見やすい場所に貼る。	・糸満市文化課資料を調べて知識を持っておく。	・手作りの紙芝居を使って興味を高める。	・幼児にわかりにくいところは説明を加える。	・幼児にわかりやすいようにやってもらうように話しておく
資料名	・絵本「月の子アカナー」 ・沖縄の民話集	・絵本「母の木」 ・沖縄の民話集	・絵本「みちこ」 ・絵本「ねずみのハーレー」	・糸満市文化課資料	・糸満市文化課資料 ・絵本「かえるの綱引き」	・糸満市文化課資料 ・絵本「へこき三良」 ・絵本「くらやみのキジムナー」	・首里城の写真や新聞記事 ・沖縄の民話集	・糸満市文化課資料	・紙芝居「鬼ムーチー」 ・絵本「十二支物語」	・糸満市文化課資料	・糸満市文化課資料 ・沖縄の民話集